

園だより 6月

わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。

箴言 1章 8節

5月の日々は、すがすがしい新緑を楽しんだのもつかの間、すでに暑さ指数を計り子どもたちが遊ぶ環境の暑さに気を配る生活が始まった月となりました。それでもふっと感じる初夏の風や、葉っぱが茂る木の下で、ダンゴムシを探したり幼虫を見付けたりと、春から夏にかけてのいきものが活発に動き出す生命のエネルギーを十分に感じながら、子どもたちはそれぞれに心と体を伸び伸びと動かし過ごしていました。

今年から園生活をスタートした子どもたちも幼稚園が安心の場となってきたことでお友だちと関わり、一緒に遊びを展開し過ごす姿がみられました。園内で様々に繰り上げられる遊びの様子には、お互いの同じような想いを共有しながら、それぞれのイメージを重ね合わせることで更に遊びが深まり発展している様子がありました。けれどもその様な展開ばかりではありません。お互いの想いが錯綜し、お互いに自分の思いが一番大切、その想いを貫こうとするとき、主張のし合いが始まります。おもちゃの取り合い、集団遊びでのルールに対する認識の違い、それぞれにイメージする遊びの展開への思いの違いなどなど、理由は様々です。その様な関わり合いはどの学年にもみられる子どもたちの姿でした。それぞれの心が動く子どもたちを注意深く見守りながら、恵みのときを過ごさせていただいていることに感謝でした。

自分の想い、感情をそのままに伝え合える環境の中で、想いがそのままに受け止められる嬉しい経験、受け止められない、時には拒否とも感じられる悲しい経験などなど、色々な経験を通し子どもたちの心は育まれます。その育みのとき、保育者たちは一人ひとりのどの様な想いにもしっかりと寄り添い受け止め、時に少し距離を置き見守りながら子どもたち自らの力で育てていく心の成長を大切に支えます。周りの様々な想いを受けながら少しずつ少しずつ心の成長は成されて行きます。そしてその成長の積み重ねにより豊かな心が育ちます。その育ちの過程が始まっています。

6月の日々もどのような育みとなるのでしょうか。保護者の皆様と共に楽しみに見守って参りたいと願います。宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子